

QND Plus Ver.9.3 正誤表

2007年6月27日 クオリティ株式会社

マニュアルの内容に誤り、追記事項があります。下記、正誤対象表をご覧ください。

■ 導入編

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
New10	I 2-1 サーバ・コンソール表内18行目「iAMT」の説明	intel Active Management Technology	→	intel Active Management Technology
New29	III 2-1 シリアル番号の登録、認証鍵の作成、管理者情報の登録	手順2の下に右のヒントを追加	→	ヒント リモートデスクトップを利用してQNDサーバを操作している場合 リモートデスクトップを利用し、QNDサーバPCを操作している場合は、ここで、ID/パスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。初期値である「ID: administrator」、「パスワード: Password」を入力し、ログインしてください。
New53	マスターサーバからスレーブサーバへ	次のデータが転送されます。 ▶ インベントリ ▶ タスクログ ▶ タスク設定 ▶ エージェントモジュール ▶ オプション設定 ▶ 画像ファイル (アイコン等)	→	次のデータが転送されます。 ▶ タスク設定 ▶ エージェントモジュール ▶ オプション設定 ▶ 画像ファイル (アイコン等)
54	ヒント マスターサーバとレプリケーションサーバの通信の帯域制御	キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥¥Quality¥¥QND¥¥Agent	→	キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Quality¥QND¥Agent
62	ヒント マスターサーバとレプリケーションサーバの通信の帯域制御	キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥¥Quality¥¥QND¥¥Agent	→	キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Quality¥QND¥Agent
New75	VI 2-4 タスクによるQPオプションのインストール表内8行目「非常駐オプション」の説明	右の記述を追加	→	※非常駐オプションを選択した場合、「インストール内容」では、[QPオプションのみインストール]、[QPオプションとRCオプションをインストール]が選択できます。 [QPオプションのみインストール]を選択した場合は、非常駐QPオプションのみがインストールされ、[QPオプションとRCオプションをインストール]を選択した場合は、非常駐QPオプションと常駐モードのRCオプションがインストールされます。

ページ	見出し	誤	正
New76	VI 2-4 タスクによるQPオプションのインストール	手順15の下に右の注意を追加	→ 注意 初回ブル実行時 初めてタスクをブル実行する場合は、必ずWindowsディレクトリに書き込み権限があるアカウントでログオンしてください。
83	セットアップ方法 管理者側の操作	手順14 (製品CD) ¥CLIENTINSTALLERディレクトリを、QNDサーバPCのローカル上にコピーします。	→ 手順14 (製品CD) ¥QND¥CLIENTINSTALLERディレクトリを、QNDサーバPCのローカル上にコピーします。
94	サイレントインストールの設定 管理者側の設定	手順4 setup.issファイルを、(ファイルサーバ) ¥CLIENTINSTALLER¥clientディレクトリにコピーします。	→ 削除
New104	ヒント 削除されないファイル	(Windowsディレクトリ) ¥QNDHostファイル (QNDのホストIDを記録するファイル) は、どのユーティリティプログラムでも削除されません。	→ (Windowsディレクトリ) ¥QNDHostファイル (QNDのホストIDを記録するファイル) は、コマンドラインオプション「-f」をつけた「UNALL.EXE」以外のユーティリティプログラムでは、削除されません。
107 ~ 123	VIII 1. バージョンアップ	バージョンアップに関して、右の記述を追加	→ QND Ver. 9.1をご利用の場合は、QND Ver. 9.1 SP1を経由せずに直接QND Ver. 9.3へバージョンアップが可能です。 QND Ver. 9.1 SP1からQND Ver. 9.3へのバージョンアップ方法のみ紹介していますが、手順は同様です。便宜読み替えてバージョンアップを行ってください。
108	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 表内5行目「QND Ver. 9.1」のバージョンアップ経路	9.1 ⇒ 9.1 SP1 ⇒ 9.3	→ 9.1 ⇒ 9.3
108	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 表内5行目「QND Ver. 9.1」の参考マニュアル	『QND Ver. 9.1 -SP1 追補マニュアル-』 本マニュアル	→ 本マニュアル
New111	バージョンアップ	右の注意を追加	→ 注意 BizPack-Vをインストールしている場合 QND Ver. 9.3からは、BizPack-VがQNDサーバと同時にインストールされます。BizPack-V Ver. 3.1以前をインストールしている場合は、まずアンインストールしておいてください。
115	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 手順13 の後	右の手順を追加	→ 手順14 「データバックアップ」(P. 110)でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。 ・¥QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv ・¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini

ページ	見出し	誤	正
115	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 手順13 の後	右の手順を追加	→ 手順15 バージョンアップを行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。 「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」については、『QIV』「IV 2-2 CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」を参照してください。
116	VIII 2-2 コンソールのバージョンアップ 表内4行目「QND Ver. 9.1」のバージョンアップ経路	9.1 ⇒ 9.1 SP1 ⇒ 9.3	→ 9.1 ⇒ 9.3
116	VIII 2-2 コンソールのバージョンアップ 表内4行目「QND Ver. 9.1」の参考マニュアル	『QND Ver. 9.1 –SP1 追補マニュアルー』 本マニュアル	→ 本マニュアル
121	VIII 2-3 スレーブサーバ/レプリケーションサーバのバージョンアップ 表内5行目「QND Ver. 9.1」のバージョンアップ経路	9.1 ⇒ 9.1 SP1 ⇒ 9.3	→ 9.1 ⇒ 9.3
121	VIII 2-3 スレーブサーバ/レプリケーションサーバのバージョンアップ 表内5行目「QND Ver. 9.1」の参考マニュアル	『QND Ver. 9.1 –SP1 追補マニュアルー』 本マニュアル	→ 本マニュアル
New 123	VIII 2-4 ホストのバージョンアップ	右の注意を追加	→ 注意 QND Ver.8.7 SP2からのバージョンアップ QND Ver. 8.7 SP2からバージョンアップする場合、QNDサーバがQND Ver. 9.1 SP1の時点で、クライアントプログラムもQND Ver. 9.1 SP1にバージョンアップさせてください。 QNDサーバのみをVer. 9.3にバージョンアップさせた場合、QND Ver. 8.7 SP2とQND Ver. 9.3の認証鍵の暗号化形式が異なるため、タスクのプッシュ実行が行えなくなります。
138	IX 4-1 旧マスターサーバでの準備 手順4 の後	右の手順を追加	→ 手順5 Directoryサーバのインストールディレクトリ（デフォルトの場合は、"（Windowsディレクトリ）¥ApInServ"）をコピーし、別の場所に保管します。

ページ	見出し	誤		正
139	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順5	右の記述を追加	→	また、Directoryサーバのインストールディレクトリ（デフォルトの場合は、“（Windowsディレクトリ）¥ApInServ”）を、旧サーバでバックアップしたApInServディレクトリと置き換えます。
139	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順11 の後	右の手順を追加	→	手順12 「データバックアップ」（P.110）でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。 ・¥QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv ・¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini
139	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順11 の後	右の手順を追加	→	手順13 バージョンアップを行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。 「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」については、『QIV』「IV 2-2 CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」を参照してください。

■ 運用編

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
New38	I 4-3 プル実行	右の注意を追加	→	注意 初回プル実行時 初めてタスクをプル実行する場合は、必ずWindowsディレクトリに書き込み権限があるアカウントでログオンしてください。
43	エージェント起動メニューの設定 手順6	右の注意を追加	→	注意 グループ/フィルタの指定 起動定義情報の表示対象とするグループ/フィルタを、必ず指定してください。グループ/フィルタを指定していない場合は、どのホストにも表示されません。
New60	I 5. スタンドアロンPCのインベントリ収集	収集したインベントリは、リムーバブルメディア/ファイルサーバ/電子メール/FTPのいずれかを利用してQNDサーバに取り込むことができます。	→	収集したインベントリは、リムーバブルメディア/ファイルサーバ/電子メール/FTP/ インベントリ代理転送 のいずれかを利用してQNDサーバに取り込むことができます。

ページ	見出し	誤		正
New101	インポートの準備	ただし、任意設定インベントリ取得の設定を行ったタスクを実行する方法では、タスク実行時にQNDホスト側で、インベントリの値を入力する画面が表示されるため、ユーザのオペレーションが必要となります。	→	ただし、任意設定インベントリ取得の設定を行ったタスクを実行する方法では、タスク実行時にQNDホスト側で、インベントリの値を入力する画面が表示されるため、ユーザのオペレーションが必要となります。
New104	タスク実行による項目名の設定 管理者側の操作	ヒント ホストが任意設定インベントリの値を入力した場合 …「項目名」さえ正しく設定できていれば、値はCSVファイルからのインポートによって上書きされます。	→	ヒント ホストが任意設定インベントリの値を入力した場合 …「項目名」さえ正しく設定できていれば、値はCSVファイルからのインポートによって上書きされます。
New122	I 12-3 ホスト一覧の情報が正しく表示されないとき	注意 復元される情報 ▶ ホスト情報ファイル (i.ファイル) を全て正しい状態にするためには、ホストに対してインベントリの再収集を行ってください。	→	注意 復元される情報 ▶ ホスト情報ファイル (i.ファイル) をすべて正しい状態にするためには、ホストに対してインベントリの再収集を行ってください。
239	VI 3-3 機能制限	右の記述を追加	→	ソフトウェア配布、キー付け、ポリシ設定、レジストリ/INIファイルの設定、リモートコントロール、スタンドアロンインベントリの収集機能は利用できません。
248	QNDエージェントの実行	Macintoshクライアントで、メールに添付されているQNDエージェントを実行する方法について説明します。	→	Macintoshクライアントで、メールに添付されているQNDエージェントを実行する方法について説明します。

■ リファレンス

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
18	I 1-13 エージェント起動メニューの設定 表内11行目「グループ/フィルタの追加」の説明	右の記述を追加	→	※グループ/フィルタの指定は必須です。
19	グループ/フィルタの選択	右の注意を追加	→	注意 グループ/フィルタの指定 起動定義情報の表示対象とするグループ/フィルタを、必ず指定してください。グループ/フィルタを指定していない場合は、どのホストにも表示されません。
New90	II 3. SU/QP/RCオプション 表内8行目「QPオプションのみインストール」の説明	オンにすると、ホストにはQPオプションのみがインストールされます。	→	オンにすると、ホストにはQPオプション（常駐/非常駐）のみがインストールされます。

ページ	見出し	誤		正
New90	Ⅱ 3. SU/QP/RCオプション 表内9行目「QPオプション とRCオプションをインス トール」の説明	オンにすると、ホストにはQPオ プション、RCオプションがとも にインストールされます。RCオ プションは常駐モードでインス トールされます。	→	オンにすると、ホストにはQPオ プション（常駐/非常駐）、RCオ プション（常駐）がともにイン ストールされます。
New91	Ⅱ 3. SU/QP/RCオプション 表内3行目「QPオプション 動作時にインベントリ表示 用アイコンを表示」の説明	右の記述を追加	→	すでにQPオプションがインス トールされていて、インベントリ 表示用アイコンがタスクトレイ に表示されているホストに対 し、この項目のチェックを外し たタスクを実行すると、インベ ントリ表示用アイコンは非表示 になります。また、その場合、 非表示になるタイミングは、 ユーザのログオフ後です。
104	ヒント 任意設定インベントリの繰 り返し利用	※「任意設定インベントリ」ダイ アログの「必須入力とする」に チェックを入れないでください。	→	削除
New153	Ⅲ 5-1 「QNDサーバアクセ スパスワードの設定」 表内7行目「リモートコン トロール中にダイアログを 表示」の説明	[リモートコントロール中にダイ アログ]にチェックを入れている アカウントで…	→	[リモートコントロール中にダイ アログを表示]にチェックを入 れているアカウントで…
175	マスターサーバが使用する ポート番号 表内15行目「QPオプショ ン」の説明	コンソールからQPにQNDサーバ を経由してログを取得するた めのポート（マスターのみ使用）	→	コンソールからQPにQNDサーバ を経由してログを取得するた めのポート
176	スレーブサーバが使用する ポート番号 表内10行目「QPオプショ ン」の通信種別	UDP	→	TCP/UDP
176	スレーブサーバが使用する ポート番号 表内10行目「QPオプショ ン」の通信種別	コンソールからQPにQNDサーバ を経由してログを取得するた めのポート（マスターのみ使用）	→	コンソールからQPにQNDサーバ を経由してログを取得するた めのポート
New177	QNDホスト利用時に使用す るポート番号	右の行を表に追加	→	接続元：マスターサーバ・ス レーブサーバ 接続先：RCオプション 接続先ポート番号：1024～5000 通信種別：UDP 説明：QNDサーバからの返信を 受けるポート
New177	QNDホスト利用時に使用す るポート番号	右の行を表に追加	→	接続元：RCコンソール 接続先：RCオプション 接続先ポート番号：1024～5000 通信種別：UDP 説明：RCコンソールからの返信 を受けるポート

■ QIV

ページ	見出し	誤	正
54	ヒント 台帳で確認できるアプリケーション	「MS-OFFICE」 / 「MS-OFFICE (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [機能] - [QIV (Quality Infomation Viewer) によるクライアント情報の台帳化] のサイトを確認してください。	→ 「MS-OFFICE」 / 「MS-OFFICE (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [QIV台帳 対応製品] のサイトを確認してください。
58	ヒント 台帳で確認できるアプリケーション	「SW-ADOBE」 / 「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [機能] - [QIV (Quality Infomation Viewer) によるクライアント情報の台帳化] のサイトを確認してください。	→ 「SW-ADOBE」 / 「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [QIV台帳 対応製品] のサイトを確認してください。
60	ヒント 台帳で確認できるアプリケーション	「SW-AutoCAD」 / 「SW-AutoCAD (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - [QND Plus] または [QAW] - [機能] - [QIV (Quality Infomation Viewer) によるクライアント情報の台帳化] のサイトを確認してください。	→ 「SW-AutoCAD」 / 「SW-AutoCAD (PRODUCT-ID)」台帳で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [QIV台帳 対応製品] のサイトを確認してください。
71	ヒント 台帳で確認できるアプリケーション	「ウイルス対策ソフト管理台帳」 / 「ウイルス対策ソフト管理台帳 [差分表示]」で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [機能] - [QIV (Quality Infomation Viewer) によるクライアント情報の台帳化] のサイトを確認してください。	→ 「ウイルス対策ソフト管理台帳」 / 「ウイルス対策ソフト管理台帳 [差分表示]」で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [QIV台帳 対応製品] のサイトを確認してください。
73	ヒント 台帳で確認できるアプリケーション	「クオリティ社オプション製品インベントリ台帳」で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [機能] - [QIV (Quality Infomation Viewer) によるクライアント情報の台帳化] のサイトを確認してください。	→ 「クオリティ社オプション製品インベントリ台帳」で表示が確認できているアプリケーションについては、弊社Web (http://www.quality.co.jp) の [製品情報] - ([QND Plus] または [QAW]) - [QIV台帳 対応製品] のサイトを確認してください。

ページ	見出し	誤		正
New101	VII 4-2 CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する	手順3 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。	→	手順3 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。
New102	VII 4-3 カスタム台帳の定期CSV出力	手順9 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。	→	手順9 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。
New104	VII 4-4 1つの台帳から2つのCSVファイルを出力する	手順5 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。	→	手順5 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」(シャープ)を削除します。

■ リモートコントロール

ページ	見出し	誤		正
New24	バージョンアップ	注意 ▶ タスクを利用したRCオプションのバージョンアップを行った場合は、インストール後RCホストを必ず再起動してください。再起動後にサービスが置換されます。	→	注意 ▶ タスクを利用したRCオプションのバージョンアップを行った場合は、インストール後RCホストを必ず再起動してください。再起動後にファイルが置換されます。
28	ホストのクイック検索	手順1 QNDコンソールで、[編集] - [クイック検索] をクリックします。	→	手順1 RCコンソールで、[編集] - [クイック検索] をクリックします。

■ QND/QAW —Security Alert Ver.1.0—

ページ	見出し	誤		正
10	ポリシチェック対象ホスト	※64bit版Windows、UNIX、Macintosh、SNMPホストは、対象外となります。	→	※64bit版Windows、UNIX、Macintosh、SNMPホストは、未処理として扱われます。 これらのホストをセキュリティポリシチェックの対象外ホストに設定する方法については、「4-7. 集計対象外ホストを設定する」(P.56)を参照してください。
12	SQL Server導入前の準備をする 表 [Windows Server 2003] の1行目	MDAC 2.8 SP1 「MDAC 2.8 SP1のインストール」(P.13)を参照	→	削除 (Windows Server 2003の場合、MDAC 2.8 SP1のインストールは必要ありません。)
62	5-2 セキュリティレポート 情報を確認する 手順4下の表	表内4行目に右の項目を追加	→	未処理 セキュリティポリシチェックが実行されていないホストの台数

ページ	見出し	誤	正
New17	3-2 構成ファイルの配置	<p>手順1</p> <p>「qbsa2」ディレクトリが表示されます。「qbsa2」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。(ここでは、「qbsa2」ディレクトリを「インストールディレクトリ」として利用しています。)</p>	<p>→</p> <p>手順1</p> <p>「qbsa2.0.1」ディレクトリが表示されます。「qbsa2.0.1」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。(ここでは、「qbsa2.0.1」ディレクトリを「インストールディレクトリ」として利用しています。)</p>
New17	3-2 構成ファイルの配置	<p>手順3</p> <p>ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2」ディレクトリ内の ～以下略～</p>	<p>→</p> <p>手順3</p> <p>ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2.0.1」ディレクトリ内の ～以下略～</p>
New17	3-2 構成ファイルの配置	<p>手順4</p> <p>「qbsa2」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。</p>	<p>→</p> <p>手順4</p> <p>「qbsa2.0.1」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。</p>
New55	4-2 構成ファイルの配置	<p>手順1</p> <p>「qbsa2」ディレクトリが表示されます。「qbsa2」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。</p>	<p>→</p> <p>手順1</p> <p>「qbsa2.0.1」ディレクトリが表示されます。「qbsa2.0.1」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。</p>
New55	4-2 構成ファイルの配置	<p>手順3</p> <p>ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2」ディレクトリ内の ～以下略～</p>	<p>→</p> <p>手順3</p> <p>ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2.0.1」ディレクトリ内の ～以下略～</p>
New55	4-2 構成ファイルの配置	<p>手順4</p> <p>「qbsa2」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。</p>	<p>→</p> <p>手順4</p> <p>「qbsa2.0.1」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。</p>